

## 1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	互いの人権を尊重し合う生徒の育成 互いのよさや違いを認め合い、一人一人が安心して生活できる学校づくり －自分や仲間を大切に活動を通して－
----------	--

### ○調査研究のテーマを設定した目的

いじめ、体罰、虐待など、児童生徒の人権に関わる深刻な問題が後を絶たない。このような問題の解決のためには、各学校において、教職員の人権感覚を磨くとともに、差別や偏見をなくし、人間として互いに尊重し合う心を育てる教育活動を充実させていくことが大切である。本年度は、以下のことを重点として取り組む。

- ① 教育活動全体を通じて、自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。
- ② 人権に関する知的理解を深め、人権感覚を育成するために、児童生徒が協力して進める学習活動や主体的に参加する学習活動、体験を通して学ぶ学習活動を設けるようにする。
- ③ 言語はあらゆる人間関係の基盤であり、何気ない言葉が相手の心を傷つけてしまうことがあることを十分に認識し、生活全体の言語環境を整えていくようにする。
- ④ 教職員自らが人権意識を高め、家庭、地域社会と一体となって人権教育を推進していくようにする。

この方針に基づき、人権教育研究指定校を指定し、県教育委員会、市町村教育委員会、研究指定校が連携して人権教育の推進に努める。また、その研究の成果等を広く普及啓発することで、本県の人権教育の充実を図りたいと考えている。

### ○調査研究の概要

自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにすることを目的とし、「生徒会活動を通して生徒が主体的に実践する人権教育」を中心として、「道徳教育やキャリア教育を通して自己の生き方を見つめる人権教育」、「家庭や地域、校区の小学校との連携を通して実践する人権教育」、「教職員の人権意識の向上を通して、他との関わりを見つめ直す人権教育」の推進に努める。

## 2. 基本情報

### 研究指定校の概要

#### ○学校名

富山市立三成中学校

#### ○これまでの研究指定等の状況

文部省研究指定「武道指導推進校」(平成7年度)  
学力向上市町村教育委員会プラン研究委託事業(令和3年度)

#### ○学級数

6学級(うち特別支援学級:2学級)

#### ○児童生徒数(R.6.1.1)

全生徒数:107名

#### ○URL

<https://swa.toyama-city.ed.jp/weblog/index.php?id=toyama115>

#### ○指定理由

当校では、毎月のハッピーアンケート(人間関係調査)及び毎学期の教育相談アンケートを行い、個別相談や面談を実施している。相談内容では、「友達との人間関係」に関するものが多く、コミュニケーションがうまくとれないことからトラブルになってしまうケースも多い。コロナ禍で長く接触や会話が制限されていたこともあり、対面で話した方がよいこともSNS上でやりとりしたりすることも多く、それが却って誤解や憶測を招き、トラブルに発展するケースもある。そこで、令和4年度の2学期から生徒会の保健体育委員会を中心に、全校でアサーショントレーニングに取り組んだ結果、多くの生徒がコミュニケーションの重要性を実感できた。

また、令和4年度の全国学力・学習状況調査では、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対し、30.7%の生徒があてはまらないと回答しており、自己肯定感の低い生徒が3割以上を占める結果となっている。

アサーショントレーニングを継続していくとともに、自分も仲間も大切にする人間関係づくりの活動を通して、互いのよさや違いを認め合い、一人一人が安心して生活できる学校づくりを目指したい。

当校は令和8年度には、水橋地区の小・中学校が統合され、義務教育学校となることが予定されている。校区の小学校や、統合が予定されている中学校とも教職員が合同で

研修会を実施したりするなどの連携を図りながら、人権教育の充実を推進でしたいと考えている。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

①子供	◎
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧-1 HIV感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他（人間関係づくり）	○

### 3. 調査研究の内容等

#### ○調査研究の内容

自分や仲間を大切にすることを通して、互いのよさや違いを認め合う意識が具体的な態度や行動に表れるようにすることを目指し、以下の4点に重点をおいて研究を進めた。

- ① 生徒会活動を通して、生徒が主体的に実践する人権教育
- ② 道徳教育等を通して、自己の生き方を見つめる人権教育
- ③ 家庭や地域、校区の小学校等との連携を通して実践する人権教育
- ④ 教職員の人権意識の向上を通して、他の関わりを見つめ直す人権教育

この内容に基づき、県教育委員会、市町村教育委員会、研究指定校が連携して人権教育の推進に努めるとともに、その研究の成果等を広く普及啓発する活動を行う。

#### ○実施方法

- ① 生徒会活動を通じた、生徒の主体的な実践

生徒会執行部、保健体育委員会が中心となって、キャッチフレーズ「みんなで取り組むS N J s（三成中の頭文字から造った本校ならではの『持続可能な開発目標』を意味する語）×人権教育」を掲げ、これと人権教育を絡めて計画的にアサーショントレーニング等の活動を行った。【参加型】【カリキュラムマネジメントの推進】

- ② 道徳教育等を通して、自己の生き方を見つめる

道徳科の授業を要として、「B主として人との関わりに関すること」や「C主として集団や社会との関わりに関すること」に重点を置き、道徳教育の充実を図った。また、年間を通して計画を立て、道徳科の授業を公開し、職員全体で研修を積んだ。【体験型】

- ③ 家庭や地域、校区の小学校等との連携

互いのよさや違いを認め合い、自分も仲間も大切にすることの重要性を伝えることを骨子とした講演会（生徒、保護者、地域の方々、教職員対象）を開催し、人権意識の高揚を目指した。【協力型】【体験型】【参加型】

- ④ 教職員の人権意識の向上を通して、他との関わりを見つめ直す

Q-U調査、ハッピーアンケート（人間関係調査）、「私の関わりを考えよう調査」等を活用して生徒の実態を把握し、学年・学級経営に生かした。また、年間を通して計画的に職員研修会を実施し、特別な配慮を要する生徒への接し方、関わり方等を話し合う中で教職員の人権意識を高めることを目指した。【カリキュラムマネジメントの推進】

## 4. 検証・評価・改善・普及

### ① 検証・評価

ア 日々の授業や生徒会活動を中心とする生徒主体の様々な活動における生徒の言動や生活ノート、道徳のワークシート等から、人権意識の深まりや変容を評価した。

イ Q-U調査や生徒への各種調査結果等のデータ分析から、人権に関する生徒の実態を把握し、その変容を確かめた。

ウ 生徒や保護者、教職員への学校評価アンケートから、人権教育の方向性や具体的な手立ての是非、学校と家庭、地域、校区の小学校との連携が図られているかを評価した。

エ 教育活動全体を通じて道徳教育や人権教育に取り組むことによって、互いを尊重し合い、思いやりをもって人と接する意識を育てることができることを検証した。

オ 生徒会活動を中心とした生徒が主体となる活動や様々な体験活動を推進したり、人権作文やいのちについて考える学習を実施したりすることによって、人権尊重に対する理解を深め、実践しようとする態度を育てることができることを検証した。

カ 人権教育に関する講演会を開催したり、研修を充実させたり、人権意識をチェックしたりすることを継続することによって、生徒や教職員の人権意識の高揚を図った。

キ 中学校が家庭、地域、小学校等と連携することによって、身近な体験から人権について考え、地域全体が人権を大切にしようとする意識を高めた。

### ② 改善・普及

・①-ア、エ、オ、カについて、各種ワークシート、活動の振り返り用紙等の生徒の記述から、「互いの人権を尊重し、自分も相手も大切にする関わりの在り方」について考えを深める生徒の姿が見られた。また、教職員の人権意識にも変容が見られ、生徒一人一人が置かれた状況や対人関係の実態に配慮しながら対話する姿が、頻繁に見られるようになった。

・①-ウ、キについて、学校評価アンケートの結果等から、本校の人権教育の方向性について概ね好意的な意見が寄せられた。また、意欲的に学校生活を送っている生徒も多く見られるようになり、「学校へ行くのが楽しい」と感じている生徒、「学ぶことが楽しい」と感じている生徒が、年間を通して概ね80%を維持した。

・①-イについて、生徒個々の人間関係の状態については今後も観察と状況に応じた介入が必要であることが分かった。特別な配慮が必要な生徒、家庭的な背景をもつ生徒の状態については、今後も注視し、望ましい関係が維持できるよう状況に応じた対応を続ける。

## 5. 人権教育に係る年間指導計画

### ① 重点目標

ア 一人一人が互いにかけてえのない存在であることを自覚し、差別や偏見をなくすとともに、互いのよさや違いを認め合うようにする。

イ 自他の生命と人権を尊重していこうとする意識を高め、具体的な態度や行動に表れるようにする。

### ② 指導の重点

ア 自分は大切な存在であると思う自尊感情を育むことができるように、ほめたり認めたりする機会や自己決定の場を増やす。

イ 教育活動全体を通して、教師と生徒、生徒同士が互いのよさや違いを認め合い、励まし助け合う温かい人間関係づくりに努める。

ウ 望ましい言語活動が行われるよう、生活全体の言語環境を整える。

エ 「人権意識チェック表（教師用）」を活用し、教師としての人権意識を高める。

オ 日頃の観察や「ハッピーアンケート」、教育相談を通して、生徒の実態把握に努め、互いに安心して学校生活を送ることができるよう、個に応じた支援を行う。

カ 「人権教育指導のために」等の啓発資料を用いて、家庭や地域、校区の小学校、近隣の中学校との連携を深め、人権教育の充実に努める。

### ③ 指導内容

	人権教育の視点	育てたい能力・態度	実践の場	
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>差別や偏見のない学級づくりと適正な言語環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いのよさや違いを認め合い助け合う温かい人間関係</li> <li>基本的な生活習慣</li> <li>進んで挨拶を交わそうとする態度</li> <li>時と場に応じた言動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の組織づくり</li> <li>創校記念式</li> <li>校外学習</li> <li>体育大会</li> <li>宿泊学習</li> <li>「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会</li> <li>帰りの会</li> <li>朝読書</li> <li>給食</li> <li>清掃</li> <li>教科</li> <li>道徳科</li> </ul>
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに協力して主体的に取り組む学校行事や学級活動の推進</li> <li>相手のよさや違いを認め合い、互いに高め合おうとする態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他と協力して最後までやり遂げようとする態度</li> <li>相手を思いやり、互いに尊重し合う態度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行</li> <li>合唱コンクール</li> <li>学習発表会</li> <li>人権集会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間</li> <li>学級活動</li> <li>生徒会活動</li> <li>学校行事</li> <li>部活動</li> </ul>

三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情を育み、自他の大切さに気付くことができる生徒の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の成長を振り返り、他者や社会に対して感謝する態度</li> <li>・よりよい自分に成長しようとする意欲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・13歳の学び</li> <li>・卒業式</li> </ul>	
-------------	--	---	---	--

④ 評価

- ・互いのよさや違いを認め合い、温かい人間関係を形成していこうとする心と態度を育てることができたか

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

